

ここが聞きたい



春山 敏明 議員(新風)

自然現象や社会的要因がこれまでと異なる変化を見せる中での消防救急について



Q コロナ禍における救急搬送の実態はどうだったのか伺いたい。

A 消防長

コロナ禍以前と比較すると、救急件数自体は急病や交通事故は減少傾向であり、医療機関での受診を控える動きや外出自粛によるものと推察されます。

119番通報から現場到着までの平均所要時間は、コロナ禍以前の令和元年と比較し、平均で50秒ほど遅延が生じています。救急隊員の感染防止対策である个人防护装備に若干の時間を要していることに加え、コロナ関連で通報受付時の聞き取り内容が増えることが遅延の要因であると考えています。さらに、救急隊員自身や救急車内の除染、消毒の頻度も極端に増えており、救急隊のみならず、除染、消毒作業を担う消防隊員の負担も増加しているのが現状です。

その他の質問

☆ジェネリック医薬品(後発薬)について

☆佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画(後期計画)について

☆佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画(後期計画)について



田所 良夫 議員(新風)

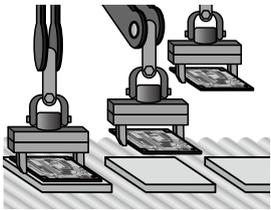
第2次佐野市総合計画について



Q 「産業の米」といわれる半導体について、令和3年12月14日、衆議院予算委員会での質疑応答がされたが、その内容をとおね認識しているか。

A 産業文化部長

新型コロナウイルスの世界的パンデミックの影響により、半導体の生産、流通が阻害され、国内でものづくりができなくなる事態に陥っているというものでした。アメリカやEU、韓国などの諸外国では、重要な製品の製造を自国内で行えるよう、補助金や税額控除など、国家戦略として半導体事業者への積極的支援措置を講じているとのことでした。本市も、半導体は今後のデジタル社会を支える重要基盤であることから、熊本県の大規模工場誘致事例などを参考に、国や県の動向を注視し、半導体産業の誘致についても調査研究を進めたいと考えています。



飯田 昌弘 議員(蒼生会)

第2次佐野市総合計画中期基本計画(基本目標)「魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくりのまち」を推進し、産業振興で活力あるまちづくりを



Q 他の自治体との都市間競争に打ち勝つための方策及び方針について、市長に考えを伺いたい。

A 市長

魅力あるまちづくり、特に働く場所の提供が大きな要素であると考えています。中期基本計画に掲げられた「進化する佐野市」、「選ばれる佐野市」の実現に向けて、本市への進出を希望する多くの企業を受け入れることは、地域活性化という点からも非常に重要であると考えています。現在、本市は、早期の産業団地整備のため、働く場所の提供に向けた取組を進めています。そのためにも、期間の短縮化が見込まれる整備の容易なエリアを見出し、整備コストの削減並びに整備効率の向上につなげ、今後とも進出を希望する企業にとつての「選ばれる佐野市」となるよう事業を推進していきます。

